

【採点指針 趣旨】

- ① 国際体操連盟制定の採点規則に基づき、E 得点（演技得点）、D 得点（難度得点）について、国際大会と国内大会の採点基準に格差が生じないように正確な採点を行うことを目指します。
- ② E 得点に関しては、平成 26 年度同様、姿勢・宙返りの開き位置・伸身姿勢の維持ならびに移動はもちろんのこと、手先・足先・ひねりにおける体幹のねじれ、手の体幹へ密着等、より精密な視点での採点評価を行います。
- ③ D 得点については、不完全な実施を厳密に見極めることを基本とし、不完全種目に対する評価を厳格に運用します。
- ④ 世界選手権、オリンピック同様、国際体操連盟と同様または同等の採点システム（設備・採点方法）を原則として運用することとします。

【各種目の採点指針】

トランポリン

① E 得点について

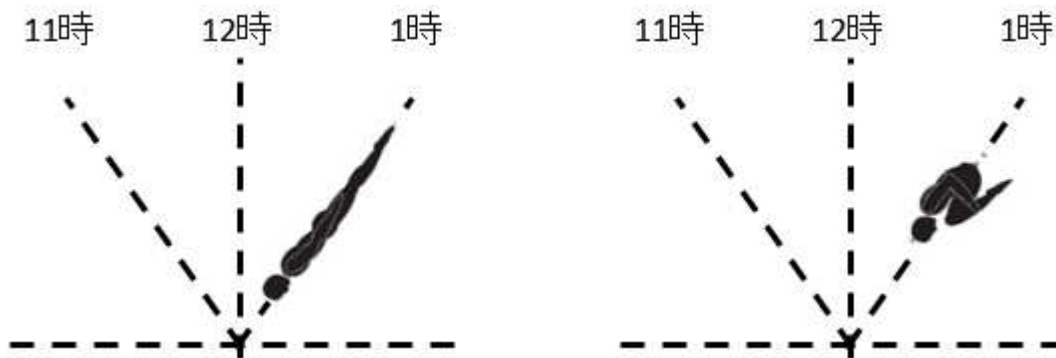
- ・宙返りの「開き」位置のみならず「抱え型」、「屈伸型」については、姿勢の「作り」を厳密に評価します。
- ・「伸び型」および宙返り開き後の伸身姿勢においては、「反り」・「腰折れ」を厳密に評価します。
- ・宙返り種目同様に難度のないフィートバウンスにおける「抱え」、「屈伸」姿勢の評価を厳格に行うと同時に、「腹」、「背」での着床種目からの立ち姿勢までの局面における伸身姿勢の維持も厳格に評価を行うこととします。
- ・アウトバウンスにおける大幅な乱れや安定感の欠如も着地減点の対象として厳格に評価を行うこととします。

② D 得点について

- ・1 回宙返りにおける姿勢の見極めは、宙返り回転の頂点（頭が逆さになった時点）ではなく、体幹が 2 時方向になった時点での姿勢で評価するものとします。

例) 後方屈伸 1 回宙返りにおいて、体幹が 1 時方向まで回転する以前に膝を 135 度以下に曲げてしまった場合、その実施は「抱え型」としてみなす（下記、図を参照）。

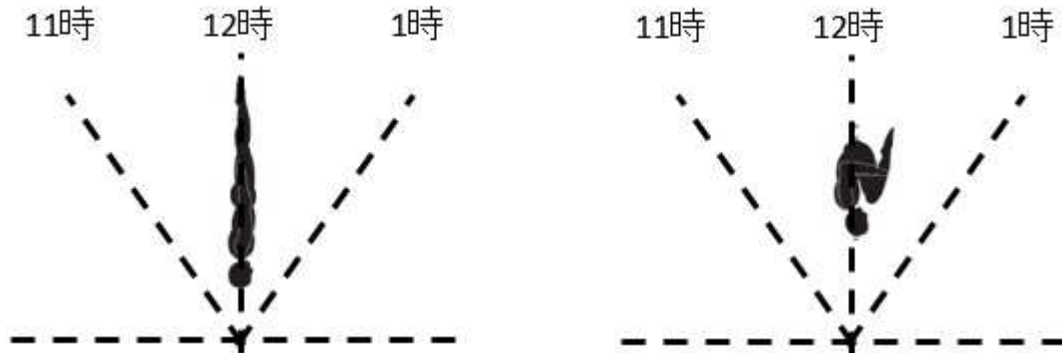
※1 時時点での姿勢で D 得点を判断します。（前方宙返りの場合は 11 時時点）



- ・2回宙返り・3回宙返りにおける姿勢の見極めは、最後の回転における宙返り回転の頂点（頭が逆さになった時点）の姿勢で評価するものとします。

例) 1：後方屈伸2宙返り2回目の回転の頂点で膝を135度以下に曲げてしまった場合、その実施は「抱え型」とみなす（下記、図を参照）。

※12時時点での姿勢でD得点を判断します。



- ・シンクロナイズド競技におけるD得点、特に姿勢の見極めは「同調性」も判断の材料とします。つまり、「同じ姿勢ではない」、と判断できるものについては中断の要件とみなします。

③ T得点・S得点について

国際大会同様、本会主催・共催競技会において国際体操連盟公認の測定器具を用いて採点を行うものとします。

④ E得点の採点に関して

設備を入手・整備次第、中間得点（Median得点）によるE得点の算出を本会主催大会で進めるものとします。

タンブリング

現状・我が国においては、発展途上の段階であるため、昨年同様の採点指針を踏襲し、実施するものとします。

① E得点について

- ・宙返りの「開き」位置のみならず「抱え型」、「屈伸型」、「伸び型」の各々の姿勢における姿勢の「作り」の評価を厳格に行うこととします。
- ・テンポ宙返りにおけるリズム、スピードおよび終盤における「伸身姿勢の維持」の評価を厳格に行うこととします。
- ・宙返り種目からのテンポ宙返りにおいては、特に高さの上昇＝スピードの失速について厳格に評価を行うこととします。
- ・着地において、上半身の乱れや安定感の欠如も着地減点の対象として厳格に評価を行うこととします。

② D得点について

- ・D得点採点の際の姿勢の見極めにおいて、判断が付きにくい際には厳格に評価を実施します。

例) 抱え姿勢か屈伸姿勢かで判断が付きにくい場合 → 抱え姿勢とみなす

ダブルミニトランポリン

現状・我が国においては、発展途上の段階であるため、昨年同様の採点指針を踏襲し、実施するものとします。

① E 得点について

- ・宙返りの「開き」位置のみならず「抱え型」、「屈伸型」、「伸び型」の各々の姿勢における姿勢の「作り」の評価を厳格に行うこととします。
- ・宙返りの終盤における「伸身姿勢の維持」において、姿勢の維持のみならず腕を可能な限り体側に付けているかも含めて評価を厳格に行うこととします。
- ・着地において、上半身の乱れや安定感の欠如も着地減点の対象として厳格に評価を行うこととします。

② D 得点について

- ・D 得点採点の際の姿勢の見極めにおいて、判断が付きにくい際には厳格に評価を実施します。
例) 抱え姿勢か屈伸姿勢かで判断が付きにくい場合 → 抱え姿勢とみなす
- ・D 得点の判定は 1 回宙返り、2 回宙返りより複数の回転を伴う宙返りにおいてトランポリン同様の判断基準を採用します。

以上